

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本を身に付け、自己実現をめざす子どもの育成
- 主体的に取り組み、豊かに表現する子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 教頭・教務主任・指導教諭・学年主任・特別支援学級主任・研修主任・人権教育主事
---------	--

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字、計算等の基礎的な知識・技能の習得率は向上してきた。 ●学習したことを、日常生活の中で活用できていないことがある。また、時間がたつと忘れてしまい、定着には至っていない。	・漢字・計算の学年目標習得率を向上することができる。 ・進んで読書(各学年読書冊数達成が50%以上)し、語彙力をつける。	・漢字や計算の確認テストを定期的に行ったり、タブレットを活用して反復練習を行ったりする。 ・読書タイムや週末読書をし、読書の習慣化を図る。	・具体的に目標とする到達数値を示し、反復練習及び小テストをこまめに行う。 ・国語辞典を日常的に使う。	・漢字や計算の基礎的な力は向上してきたが、個人差が大きい。また、漢字の意味や多様な読み方、計算の意味理解が十分でないため、使いこなせていない。 ・じっくりと読むことが苦手な児童が多く、語彙力向上には至らなかった。	・認知トレーニングを取り入れ、学習への下地づくりを行う。 ・具体的な目標を示し、ミニテストや確認テストを行い、基礎基本の習熟を図る。 ・読書活動や国語辞典の活用を充実させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多様な表現方法や学習形態をとることで、自分の考えを伝えようとする意識が育ってきている。 ●自分の考えに自信がもてず、全体の場で自分の考えを発表することに苦手意識がある児童がいる。 ●必要な情報を選んだり、自分の考えを表現したりすることに課題がある児童がいる。	・内容を整理しながら文章を読んだり話を聞いたりして、感想や自分の考えをもつことができる。 ・必要な情報を選び、自分の考えや思いを自分なりに表現することができる。	・メモや付箋、ホワイトボードを活用し、考えたことを書きとめられるようにする。 ・ペア・グループやタブレットを活用した伝え合いの学習を効果的に取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・学習のふり返りをノートに書く時間を確保する。	・基本となる型を示したり例を提示し、自分の考えをまとめやすくする。 ・新聞づくり、ビデオ放送など、様々な方法を取り入れ、自分の考えや思いを発信する。	・タブレットやホワイトボードを活用し、友達の考えを知ったり、自分の考えと比較したりする活動を行い、考えを深めることができた。全体の場で発表となると、消極的になる児童がいる。 ・口頭では答えられても、文章を読みとって書いて答えることが難しい児童が多い。	・目的を明確にし、学びを表現する多様な場を設定する。 ・初めての文章問題に段階的に取り組ませる。 ・読んだ内容を図や絵に表し、イメージできるようにする。 ・タブレットを活用したグループ学習の教材開発を行い、引き継いでいく。 ・「阿波子タイムズ」を活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提示された課題には真面目に取り組むことができる。興味をもつ課題に対して、主体的に取り組む児童が増えてきた。 ●個人差が大きく、手助けが必要な児童が多い。	・新しいことに興味をもったり、自分の課題を見つけたりして、主体的に学習に取り組むことができる。	・「やってみよう」「分かった」という思いをもてる授業の研究・実践に取り組む。 ・課題を終えた児童が取り組めるプリントを準備したり、ヒントカード等を活用したりして、自ら学習に取り組めるようにする。	・朝活の時に漢字ノートや自学ノートの紹介をし意欲付けを行うことで取り組みに勢いが増した。 ・課題を終えた児童は、タブレットを活用し自主的な学習ができた。	・最初は興味をもつことができていても、意欲を継続させるには、困難さがあった。 ・ミライシードの既習の範囲に取り組める児童は50%程度であった。毎日触れる機会を設定する必要がある。	・根気強く学習する習慣を身に付けられるように、家庭との連携を図る。 ・タブレット活用において教師の教材開発の研修を行う。

令和3年度 学力向上ロードマップ

